

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上検討委員会構成

富岡小学校  
「学力向上実行プラン」

- 基礎・基本を重視し、よくわかる授業を展開する。
- 児童の学ぶ意欲を引き出し、自ら考え、主体的に判断・行動できる力を育てる  
学習指導の充実・改善を図る。
- 友達の意見を聞き、自分の考えを的確に伝える力を育成する。

<b>学力向上推進員</b>	<b>委員</b> 校長 村上 耕太郎 教頭 島尾 雄大
教諭 桑平 尚美 (算数主任)	教諭 教務主任 篠原 敏文 6年主任・国語主任 奥谷 麻里亜 5年主任・研修主任 新田 望
竹内 香織	4年主任 羽里 和将 3年主任 佐々木 陽子 2年主任 森 郁子
	1年主任・研修主任 松岡 弘子 生徒指導主任 横手 隆介 人権教育主事 村田 亘

校長  
村上 耕太郎

【各校の取組状況の把握について】

管理職や教員相互による授業参観・校内研修での報告・情報交換など様々な機会を捉えて取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習のきまりを守り、まじめに課題に取り組もうとしている。基本的な漢字の読み書きや計算は、習得できている児童が多い。 ●既習内容がほぼ定着している児童と不十分な児童との差があり、二極化傾向が見られる。	・「富小っ子授業のルール 10 の約束」を守ることができる。 ・基礎的・基本的な知識や技能を学習や生活に活用することができる。	・「富小っ子授業のルール 10 の約束」の指導を継続し、知識・技能の習熟を図るための素地を作る。 ・児童の実態に応じた発問や学習活動の設定により、獲得している知識や技能を生かす場面を設ける。 ・朝の活動の時間を活用し、学習内容の定着を図る問題や活用問題に取り組めるようにする。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを書いたり発表したりでき、それをもとに話し合い、共有できる。 ●筋道を立てて話したり、友達の意見と比較して考えを述べたりすることは苦手な児童がいる。	・目的に応じて根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを表現できる。 ・友達の考えのよさに気付き、比較しながら、さらに考えを広めたり深めたりできる。	・自分の考えを持ってそれを表現する場面を設定し、発問や板書を工夫して共有や比較をしやすいようにする。 ・考えの伝え方について可視化して提示する。 ・表現のツールとしてタブレットも活用できるように、教員間で活用方法を共有する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題に対して興味・関心を持ち、一生懸命に問題解決を図ろうとする。 ●与えられた課題や指示されたことはまじめに取り組むが、自分から課題を見つけ、見通しを持って問題を解決しようとする児童が少ない。	・課題に対して見通しを持ち、主体的に解決に取り組むことができる。 ・学習内容を理解し、見方や考え方を働かせて、解決する方法を見つけたり、選んだりすることができる。	・めあてとまとめを明確にして児童が見通しを持って課題解決に取り組めるようにし、学習を振り返る時間を確保して次の学習への意欲につながるようにする。 ・よい例を掲示する等、自主学習を奨励する。 ・デジタル教科書やタブレットを活用し、個に応じた学びや主体的な学びにつなげる。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

